

- ◆企画名 2018年度 関西大学ピア・コミュニティ夏合宿
日程 2018年9月3日(月)※4日は台風接近のため中止となった。
場所 関西大学 飛鳥文化研究所
参加者数 22名(ピア・サポーター8名、研修生9名、学生支援室TA2名、教職員3名)
目的

- ・ピア・コミュニティの枠を超えて交流することで、ピア・サポーター同士の絆を深め、同じピア・サポート活動を行う仲間であることを感じてもらい、今後のコミュニティ間の連携を促進する。
- ・ピア・サポートの理念を見つめなおし、今後のピア・サポート活動に向けての自分だけの指針を考えてもらう。
- ・ピア・サポート活動を行うにあたって、必要な手続きを再確認する。

内 容

- ・アイスブレイク
- ・本部ワーク～今後のピア・サポートに向けての私の指針作り～
(前半) クイズ形式でピア・サポートの理念の再確認を行った後、教職員、TA にピア・サポーターが「今後のピア・サポート活動に向けての自分だけの指針」を考える上での参考となる話をしてもらった。
- (後半) 参加者に今後のピア・サポート活動に向けて、自分だけの指針を考えてもらった。

効 果

- ・楽しみながらピア・サポートの理念について再確認してもらうことができた。また、教職員・TA の話を聞いたことで、多角的にピア・サポートを見つめることができた。
- ・指針を作ったことで「ピア・サポートに対するモチベーションが上がった」などの感想が多く寄せられた。企画者側から見ても、各コミュニティのサポーターが、こういったことをピア・サポートで大事にしていきたいのかを指針を通して知れたのでよかった。

改 善 点

- ・台風などのアクシデントが生じそうな場合は、早めに実施に関する対応を考える。
- ・ワークでは、様々な人と交流できるようにグループ変えを積極的に行う。
- ・本部ワーク(前半)での教職員・TA の話が一方的だったため、参加者は終始聞くだけで集中力が続かなかったという意見があった。今後の企画では、参加者が受動的にならないような双方向的なワークになるように工夫する。また話の時間が長時間になってしまったため、途中で休憩の時間を設ければよかった。
- ・日ごろから他コミュニティのサポーターとつながりを持つようにして、参加者募集のしやすい環境を作る。

感 想

今回の夏合宿では、早い段階で企画の方向性が定まったため比較的スムーズに準備を進めることができた。また、担当者間で積極的にコミュニケーションを取ったことで準備の進捗状況を容易に把握することができた。しかし、ほとんどの準備を担当者で行ってしまったので、会議の時間などを使って担当者以外のメンバーにも何らかの形で夏合宿に貢献してもらえるように工夫すればよかったと反省している。

合宿後のアンケートで、本部ワークの評判は良く、今回作成した指針をモチベーションにしてこれからのピア・サポート活動に励んでもらえたらと願う。

また、KUブリッジやKUサポーターズからの参加者がゼロであったように、コミュニティの偏りが目立った。次回の春合宿ではすべてのコミュニティが参加してもらえるように尽力したい。